



副院長／泌尿器科診療部長

## 権藤 立男先生

2003年東京医科大学卒業後、同大学泌尿器科学に入局。同大学八王子医療センター勤務、同大学泌尿器科学助教、川崎市立井田病院消化器外科、東京都立広尾病院泌尿器科、米国メモリアルスローンケタリングがんセンター泌尿器科勤務、東京医科大学泌尿器科学講師、荻窪西口クリニック勤務などを経て2019年より現職。日本泌尿器科学会泌尿器科専門医。

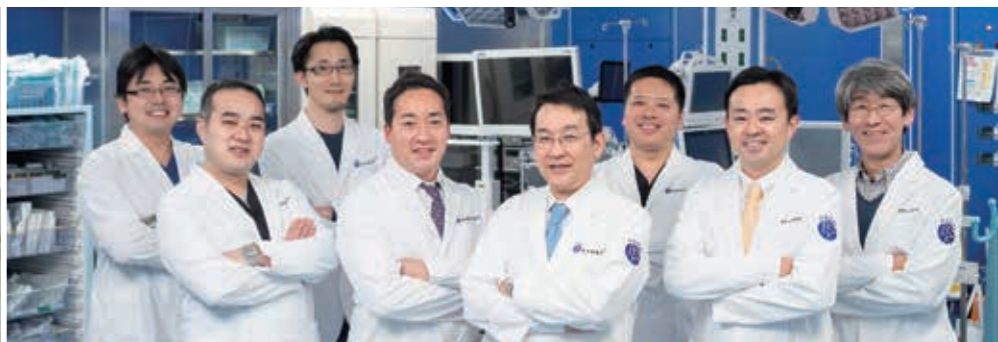
### 泌尿器科 ロボット支援手術

- 1 高画質で立体的な手術画像のもと、人間の手の動きを精密に再現できる手術支援ロボット
- 2 診察では、患者の表情なども見て何か変わったことがないか確認することを大切にしているという



**経験豊富な医師たちがめざす  
合併症の少ないロボット支援手術**

同院が最も力を入れて取り組んでいるのが、前立腺がんに対する手術支援ロボットを用いた前立腺全摘術。大堀病院院長と権藤立男副院長をはじめとする経験豊富な医師たちが、低侵襲で合併症の少ない手術を実践している。



### TOPICS

#### 外来から手術までのすべての診療を 経験豊富な医師たちが担当

泌尿器科の専門病院として最先端の診療をめざす同院。現在、泌尿器科の常勤医師は7人いるが、その全員が日本泌尿器科学会泌尿器科専門医だ。大学病院などでは、研修医など若い医師が診療することもあるが、同院では、初診の外来から手術まで、すべての診療にその医師たちがあたる。「これは、患者さんにとって大きなメリットです」と権藤副院長は話す。



7人の日本泌尿器科学会泌尿器科専門医が、知識や技術、経験を駆使した診療に取り組んでいる

骨盤の最も深いところにある臓器で、多くの骨や血管、神経に包まれている前立腺。それを摘出する前立腺がんの手術は、これまで開腹や腹腔鏡によって行われていたが、開腹手術では大出血を起したり、回復までに時間がかかったりすることも。一方で腹腔鏡の手術は、手技が難しい。さらに、いずれの方法であっても、手術後に尿失禁や男性機能障害などの合併症を起すリスクが高いことなどが、前立腺摘出手術の問題点だったという。

そして、それらのリスクを最小限にできるのがロボット支援手術だ。ロボット支援手術なら、腹腔鏡手術と同様に傷が小さいことに加え、視野を3Dで拡大でき、人の手と同等以上の細かい動きが可能だという。

「周りの臓器を確認しながら繊細に前立腺を摘出できるので、出血も少なく、

術後の尿失禁や男性機能障害などの合併症のリスクを減らし、早期の社会復帰も望めるのです」と権藤副院長。実際にロボット支援手術により、術後の尿失禁や男性機能障害も格段に減っていると実感しているそうだ。

とはいえ、手術支援ロボットを使えばどんな医師でも質の高い手術ができるわけではないと権藤副院長は語る。「例えば、どんなに性能の良い車でもドライバーが素人であれば、その性能を発揮できません。同じようにロボット支援手術も、それを行う医師の技量に左右されるのです」

同院には、国内の泌尿器科ロボット支援手術の先駆的存在である大堀病院院長と権藤副院長をはじめとする経験が豊富な医師がそろっており、全国でもトップクラスの質の高い前立腺がんの手術を提供できる体制を整えている。



## 大堀 理 病院長

1986年岩手医科大学卒業後、米国ヒューストン市ベイラー医科大学泌尿器科講師、米国メモリアルスローンケタリングがんセンター前立腺診断センター副所長などを歴任。2007年に東京医科大学教授に就任し、同大学病院前立腺センター長・ロボット手術支援センター長などを経て、2019年に開院。日本泌尿器科学会泌尿器科専門医。医学博士。

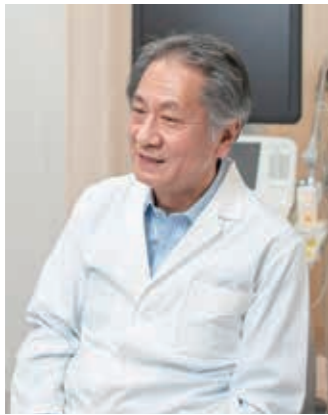
三鷹駅北口からシャトルバスで約5分の閑静な住宅街に、平成31年4月オープンしたのが『東京国際大堀病院』だ。これまで、東京医科大学教授や同大学病院ロボット手術支援センター長を歴任するなど豊富な経験を持つ大堀理病院院長は、同院でも手術支援ロボットをはじめとする先進の医療機器を多数導入。経験と技術、知識を生かしつつ、最先端の治療提供をめざしている。また、「小さな病院のメリットを生

かし、患者さん自身やそのご家族の背景なども踏まえて診療をすることを心がけています」と大堀病院院長。患者を極力待たせず、先端の診断や治療を受けられる病院であることも大切にしながら、患者の幸せを追求していきたいと話す。

令和2年4月からは、ベテラン医師を招き婦人科の診療も開始した同院。「泌尿器や婦人科のことでお悩みがありましたら、気軽ににご相談ください」

### 先進の手術支援ロボットによる 泌尿器科・婦人科疾患の最先端治療を追求

# 医療法人社団實理会 東京国際大堀病院



ロボット手術部門長/婦人科部長

## 井坂 恵一先生

1976年東京医科大学産科婦人科学教室入局。ジュネーブ大学留学、ロンドン大学留学、東京医科大学産科婦人科学教室講師・助教・主任教授・特任教授、日立総合病院ロボット手術センター長などを経て2020年より現職。日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医。



子宮がんや子宮筋腫などの婦人科疾患でも、ロボット支援手術は、体に残る傷口が小さい、入院期間が短いなど多くのメリットがある

「ロボット支援手術は、腹部に4〜5個の小さな穴を開けて行いますので、開腹手術に比べると傷が非常に小さくて済みます。これは、特に女性にとって大きなメリットです」と井坂先生。手術でも、自身で最初から最後まで責任を持って診るなど、常に初心を忘れないことを心がけていると話す。

令和2年4月に、子宮脱をはじめとする骨盤臓器脱に対する手術支援ロボットを用いた仙骨脛固定術が保険収載されたことから、同院でも女性泌尿器科を担当している山下英之先生と連携して順次、対応していく予定だ。

## 婦人科 ロボット支援手術

### 経験豊富な医師による子宮がんなど婦人科疾患のロボット支援手術

令和2年4月より婦人科の診療を開始した同院。身近な女性特有の病気を診るほか、国内の婦人科ロボット支援手術におけるパイオニア的な医師による子宮がんや子宮筋腫、骨盤臓器脱などのロボット支援手術による根治治療など、幅広く対応する。

同院では婦人科開設に伴い、国内の婦人科ロボット支援手術の先駆的存在であり東京医科大学名誉教授でもある井坂恵一先生が、常勤の医師として診療を開始。その豊富な知識や技術、経験を生かし、国内ではまだ行っていない施設が多くない早期の子宮がんや子宮筋腫、子宮内膜症など婦人科疾患のロボット支援手術に積極的に取り組んでいる。

「ロボット支援手術は、腹部に4〜5個の小さな穴を開けて行いますので、開腹手術に比べると傷が非常に小さくて済みます。これは、特に女性にとって大きなメリットです」と井坂先生。手術でも、自身で最初から最後まで責任を持って診るなど、常に初心を忘れないことを心がけていると話す。

令和2年4月に、子宮脱をはじめとする骨盤臓器脱に対する手術支援ロボットを用いた仙骨脛固定術が保険収載されたことから、同院でも女性泌尿器科を担当している山下英之先生と連携して順次、対応していく予定だ。

泌尿器科医員/尿管結石部門長

## 夏山 隆夫先生

2012年山形大学卒業後、JCHO東京新宿メディカルセンター(旧・東京厚生年金病院)初期研修医。同センター泌尿器科、千葉西総合病院泌尿器科勤務などを経て2019年に東京国際大堀病院へ。2020年より現職。日本泌尿器科学会泌尿器科専門医。



1 先進の体外衝撃波結石破砕装置を導入している  
2 管理栄養士と連携して、尿管結石の再発予防にも注力

年々増加しているといわれる尿路結石に対し、薬物による自然排石を促す治療に加え、体外衝撃波結石破砕術と経尿道的尿路結石破砕術、経皮的腎臓結石術の3つの治療に対応。それぞれに新鋭の治療機器を導入しており、「どの場所にあるどんな大きさの結石の治療にも取り組めるのが強みです」と夏山隆夫先生は話す。入院は避けたいなどの患者の希望にも、できるだけ応じられるようにしているそうだ。

加えて、再発予防にも力を入れており、結石の原因を追究すると同時に、管理栄養士による結石ができていく食事の指導や、結石の原因となる生活習慣病の予防にも取り組んでいる。

また、同院では、必要なときにはすぐにCT撮影ができる体制を整えていることから、エックス線撮影では写りにくい結石や破砕後の結石の確認も精密に行える。

「尿路結石の治療ができる病院は限られていますから、できるだけ多くの方を治療していきたいと思っています」

## 泌尿器科 尿路結石の治療

### 先進の機器を用いた治療に加え再発予防にも力を入れる

同院では、令和2年1月に尿管結石の専門治療部門を開設。腎臓と尿管、膀胱、尿道にできた結石に対し、経験豊富な医師による新鋭の機器を用いた治療に加え、結石の原因調査と再発予防のための食事指導などのサポートまで行っている。

泌尿器科医員

## 山下 英之先生

1999年北里大学卒業後、同大学泌尿器科学教室入局。同大学助教、ペイラー医科大学留学、国際医療福祉大学三田病院泌尿器科講師、北里大学北里研究所病院泌尿器科副部長などを経て2019年より現職。日本泌尿器科学会泌尿器科専門医。医学博士。



1 肥大した前立腺を切除するホルミウムヤグレーザー治療器  
2 高画質、高速度、適正線量を兼ね備えた先進のCT

尿が出にくくなる男性の前立腺肥大症で、薬物療法では症状が改善しない場合に、低侵襲の経尿道的レーザー前立腺核出術(HoLEP)を実施。急に強い尿意を感じる過活動膀胱には、薬物療法に加え、心臓ペースメーカーのような装置を体内に植え込み、仙骨神経に持続的に電気刺激を与える仙骨神経刺激療法(SNM)や、ボツリヌス毒素膀胱壁内注入療法で、症状の改善を図っている。

さらに、排尿の問題を抱える女性が気軽に相談できる窓口として、女性泌尿器科を開設。咳や運動などで尿が漏れてしまう腹圧性尿失禁には、骨盤底筋体操の指導や中部尿道スリング手術を行うなど、女性の排尿障害へも幅広い治療を提供している。

歳のせいだと諦めがちな排尿障害は治療によって治すことができると山下英之先生。

「排尿の悩みは打ち明けにくいと思いますが、その窓口になりたいと考えています。お気軽にご相談ください」

## 泌尿器科 排尿障害の治療

### 男性の前立腺肥大症に加え女性の排尿障害の治療にも力を入れる

60歳以上の約78%が排尿に関して何かしらの悩みを持っていると報告されている中、同院では、頻尿や尿失禁、尿が出にくい、残尿感などの排尿障害の治療にも注力。薬物療法に加え、先進の機器を用いた手術による治療にも取り組んでいる。

## 診療科目

- 泌尿器科
- 婦人科
- 内科
- 循環器内科
- 臨床検査科

病床数：35

## 診療のご案内

診療受付時間	月	火	水	木	金	土	日	祝
8:30 ~ 11:30	●	●	●	●	●	●	—	—
13:00 ~ 16:00	●	●	●	●	●	—	—	—

※婦人科の診療は火・木・金曜の午前中のみ(受付時間 8:30 ~ 11:30)となります

お電話でのご相談・ご予約はこちらまで

TEL: 0422-47-1000

※ネットでの診療予約も可能です。詳しくは病院ホームページをご確認ください  
※無料ネット診療も受けつけております。病院ホームページの専用フォームから気軽にご相談ください



## 医療法人社団實理会 東京国際大堀病院

TEL: 0422-47-1000  
所在地: 三鷹市下連雀4-8-40  
駐車場: 有(6台)  
休診日: 日/祝  
MAP: P000 O-O

LINK: P000

さらに詳しく

